

企業  
情報

株式会社フジワラテクノアート  
業種：製造業  
従業員規模：101～300人

課題  
分類

サプライチェーンの最適化  
固定費の削減  
業務プロセスの効率化

DX実践の  
目的

サプライチェーン

# 生産管理システム導入により業務の効率化・可視化を実現

課題  
内容

- 醸造食品を製造する機械・プラントメーカーである。2050年を見据えたビジョン実現に向けて、提供価値の一つである「フルオーダーメイドの高度化」のため、創造的業務に向けた時間の創出が必要であり、業務の可視化・効率化を最優先課題として取り組む必要があった。
- ・ 自作の販売管理システムと、エクセルや紙ベースでの設計・製造工程の管理を併用しており、効率が悪かった。
- ・ 部品発注の際は、図面データから転記した部品表を基に、発注書を作成・印刷したものを協力会社に1社ずつFAXで送信しており、手間がかかっていた。

実施  
概要

- 生産管理システムを導入するにあたり、経営方針実現に向け実行委員会を立ち上げ、全部門の担当者を集め、業務フローの見直しとルールの整理を行った。
- 発注の際、エクセル形式の部品表を直接、生産管理システムに取り込む運用に変更した。
- 受発注システムの導入により、個別にFAXで送信していた発注処理を、インターネットを介して自席ですぐに対応ができるように変更した。

効果

- 発注業務の電子化により、協力会社との情報共有が円滑に行われたことで、電話やメールでの納期確認の手間がなくなり、発注工数が月400時間削減でき、月12万円のコスト削減となった。
- システムの導入と業務プロセスの改善により情報共有が進み、業務の進捗状況などが可視化され、部門・役職を越えた社内コミュニケーションの活性化が図られた。

苦勞話

「2050年に向けたビジョン実現のためにDXが必要である」と各社員が理解し、自分ごととして捉えるまでに時間を要した。経営者が「DXはビジョン達成の手段である」ことを繰り返し説明し、DXが各社員にとって「自分ごと」となるよう取り組んだ。また、DX推進委員会メンバーがベテラン社員に対して丁寧な説明を繰り返した。協力会社に対しては、システムへの切り替えに賛同いただけるよう目的や操作方法の説明を丁寧に行った。

IT  
ツール

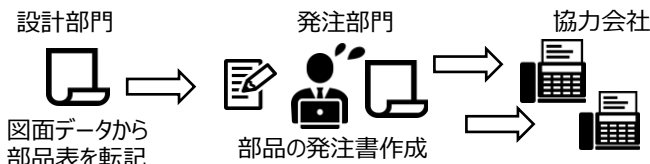
【使用ツール】TECHS-S <https://www.techs-s.com/product/techs-s>  
【取り扱い企業】株式会社テクノア <https://www.technoa.co.jp/>  
【ツール概要】個別受注型機械・装置業向けの生産管理システム



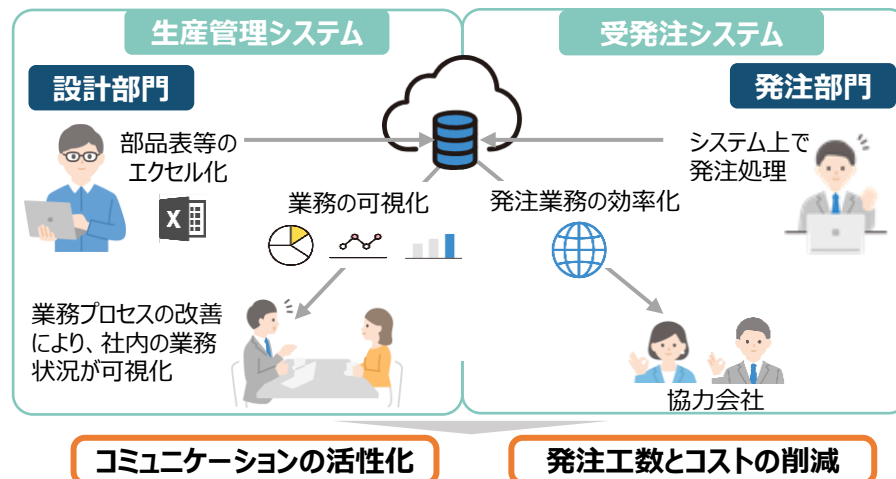
Point

- ・発注業務をデジタル化することで、  
月400時間の発注工数および月12万円のコスト削減
- ・業務の進捗状況の可視化により、社内コミュニケーション活性化

【導入前】紙ベースの図面データをもとに部品の発注書をパソコンで作成・印刷し協力会社1社ごとにFAX送信しており非効率



【導入後】生産管理システムによる業務の可視化  
受発注システムによる発注処理の効率化を実現



補助金活用

-

【使用ツール】BtoBプラットフォーム受発注for製造業 <https://www.techs-s.com/product/b2b>  
【取り扱い企業】株式会社テクノア <https://www.technoa.co.jp/>  
【ツール概要】受発注業務を電子化し、リアルタイムな状況確認や情報共有が可能なプラットフォーム